

聖書箇所:ヨハネの福音書4章16~30節

『自分の水がめを置いて』

【1】 たましいの医者イエス

- ・心の渇きを潤す「生ける水」をイエスに求めたサマリアの女性
 - イエスの返答「行って、あなたの夫をここに呼んで来なさい。」(4:16)
 - 女性の触れなかった過去に言及したイエス (4:18)
- ・サマリアの女性が炎天下の水を汲みにきた理由
 - 三人以上の夫を持つことが非難され事実婚も認められない時代
 - 過去が明るみに出され、現生活が脅かされることを恐れた
- ・たましいの医者イエス
 - 「人についてだれの証言も必要とされなかった…人のうちに何があるかを知っておられた」(ヨハネ 2:25) イエス
 - 生ける水を求める彼女の心の渇きの核心部分に光を当てたイエス

【2】 まことの礼拝者

- ・サマリアの女性のイエス理解：旅人から、神の「預言者」、そしてキリストへ
- ・礼拝の場所を巡るユダヤ人とサマリア人間の論争について質問
 - イエスの回答：どのような心で誰を礼拝するかが重要
 - 自らサマリア人との間にある隔てを超えられたイエス



【3】 自分の水がめを置いて

- ・私たち人間
 - 「人が自らの造り主なる神をただしく知り、心から愛し、永遠の幸いのうちを神と共に生き、そうして神をほめ歌い賛美するため¹」に創造された。
 - 最初の人アダムの墮落以来、「神と自分の隣人を憎む方へと生まれつき心が傾いている²」。
- ・自分の心の闇と向き合ったサマリアの女性。その心にキリストの光が差し込み、愛に飢え渴いた心に生ける水が湧き出て、救い主の証言者へと変えられた。

▷私たちは自分ではどうすることもできない心の闇を抱えていないでしょうか。キリストは両手を広げて、わたしのもとに立ち返るように、と招いてくださっているのです。

¹ 吉田隆訳『ハイデルベルク信仰問答』新教出版社

² 同上